

学校教育目標	本年度の重点課題
<p><b>徳島県学校教育目標</b></p> <p>とくしまの教育力を結集し、未来を創造する、たくましい人づくり ～県民とともに考え、ともに育むオンリーワン教育の実現～</p> <p><b>学校経営の基本方針</b></p> <p>自分に自信を持ち主体的に行動できる児童生徒の育成を目指して、計画的かつ継続的な指導を行う。</p> <p><b>教育目標</b></p> <p>1 小学部 基本的な生活習慣の確立をめざし、一人一人に応じたコミュニケーションの能力を養い、対人関係の向上を図る。</p> <p>2 中学部 生活に必要な知識や技能を身につけ、集団や社会の中で共に生きていく態度を養う。</p> <p>3 高等部 社会参加・自立をめざし、勤労に対する基本的な能力と働く意欲を育てる。</p>	<p><b>重点課題 I</b></p> <p>○児童生徒の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。</p> <p><b>重点課題 II</b></p> <p>○安心安全な学校づくり（危機管理・安全管理）を推進する。</p> <p><b>重点課題 III</b></p> <p>○保護者・関係機関及び地域との連携を強化し、開かれた学校づくりに努める。</p>

平成29年度 学校評価（総括評価）

小学部

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
		評価指標	評価指標の達成度		総合評価	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	I なかよしタイム(社会性の育成を目指した自立活動の間における指導)の指導内容表(5	I-1 ワーキンググループを立ち上げ、実践を牽引できた。夏期休業中に低中高の各学年で作業を行い、指導内容表が完成できた。 I-2 後期に、完成した指導内容表を使って、授業実践ができた。	1-1 5月に「自立活動推進委員会」をWGとして立ち上げ、実践を牽引できた。	1-2 8月に「身体の動き：指導内容表」を完成させた。	A	・来年度の転入学児童数が決まり、近年の児童数の増加傾向に落ち着きが見られる。しかし、教室(指導場所)不足の状況は続いてお
		I-3	1-2 完成した指導内容表を使って、自立活動(な	1-3	(所見) 平成26年度後期から取	

身体の動きを中心とした)を作成し、実践の質を継承、維持、発展させる。	I-4 使用前後にアンケートが実施でき、指導内容表の有効性を評価できた。また、問題点等につき改善に取り組むことができた。	かよしタイム)の一部の授業で実践ができた。完成した指導内容表でユーザーテストを実施し、有効性の確認と改善ができた。	り組み始めた自立活動(なかよしタイム)「指導内容表」作りである。「人間関係の形成」「コミュニケーション」に続き、本年度は「身体の動き」に着手できた。年度末には、本年度の実践を「自立活動実践マニュアル」に追加し、来年度に引き継ぐ予定である。なかよしタイムの実践も7年を経過し、これまで蓄積された指導内容や教材を標準検査等を基準に小学部の全教員でまとめあげることができた意義は大きい。教員の異動等で経験の浅い(ない)教員が授業を担当する場合も、系統的で根拠のある指導ができる前提となった。	り、安全面の配慮を怠ることなく工夫を続け、指導の改善や充実を図る必要がある。 ・新学習指導要領への移行期となる来年度は新学習指導要領の実施に向けて検討試行を続ける。 ・初任者3名配置が3年目を迎え、加えて7名の教諭が産休・病休に入ったことで教諭の4割が教職3年未満となった。教員の計画的な学部間異動や若手・中堅教員の育成システムの再構築が求められている。
	<b>活動計画</b> I-1 実践を牽引するワーキンググループを立ち上げる。 I-2 夏期休業中に低中高の各学年で指導内容表作りの作業を行う。 I-3 後期に、完成した指導内容表を使った授業実践を行う。 I-4 使用前後にアンケートを実施し、指導内容表の有効性を評価し、改善を図る。	<b>活動計画の実施状況</b> I-1 WGの構成メンバーは、学部長、学年主任(進路指導課員)、教務主任に数名追加した。 I-2 学年を超えて教職経験年数等を考慮したグループを編成し、学部教員全員で作業を行った。 I-3 完成した指導内容表について、社会人講師(P・T・O・T・S・T)の助言も受け、検討改善を加えながら実践を続けた。 I-4 完成した指導内容表でユーザーテストを実施し、改善を加え、誰もが指導を計画・実践・評価しやすい物にした。		

中学部

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	1 キャリア教育的観点に基づいた中学部3年間の教育方針を策定する。 2 アセスメント結果に基づいた根拠のある指導・支援の質を高める。 3 関係機関と連携したキャリア教育・進路学習のカリキュラムを設定する。 4 県教委との連携の基、生徒が主体的・対話的な深い学びに繋がる授業の在り方を検討する。	<b>評価指標</b> I-1 学部会において協議・合意して策定する。 I-2 客観的アセスメントの結果分析に基づいた指導・支援事例を10例以上実施する。 I-3 県教委 社会貢献サポート事業「はっぴいえコプラザ」への参加を通じて、中3 作業学習の年間指導計画を策定する。 I-4 ①各学年ごとに授業研修シートを用いて、年間3回の授業研究を実施し、生徒の主体的・対話的な深い学びに繋がる要素を抽出する。 ②県教委・総合教育センターと連携し、中3 作業学習における授業研究を①を含めて5回以上実施する。	<b>評価指標の達成度</b> I-1 3年間のキャリア教育方針について策定することができた。 I-2 研修並びに生徒指導、転入生徒を対象としたアセスメント活用を12事例実施した。 I-3 H29実施内容をもとにしたはっぴいえコプラザとエコ・リサイクル活動の年間指導計画を策定することができた。 I-4 ①各学年ごとに年間3回の授業研究を実施することができた。 ②総合教育センターと2回授業研究を実施し、①と合計して5回実施することができた。	地域との交流がキーエイや中学校などいろいろ行われている。これからも続けてほしい。 スポーツをとおした交流が盛んだが、国府中学校には今売り出し中の歌手がいる。音楽をとおした交流もできるのではないか。徳島には素晴らしい物がたくさんある。地域の良さ、徳島の良さを知ってほしい。そのことを学校からも発信できる。	総合評価の通り、中学部としてのキャリア教育や進路学習を重視する教育体制のベースを整えることができた。 今後は、教員・学年の共通理解を図りながら、各学年で必要と考えられる学習・指導内容の検討・設定をする。また、個別の教育支援計画や個別の指導計画の運用と日々の授業などを関連づけた評価・改善する仕組みを作りたい。これまで同様教員の資質向上の研修も実施したい。
		<b>活動計画</b> I-1 4月：学部長立案→学部会にて協議・合意手続きを取る I-2 5~7月：アセスメント実施(特別支援課とも協働連携) 8~12月：結果分析に基づく指導・支援サポート 1月：サポート結果をアンケート法でまとめる I-3 6・11・2月に3年学年会を通じて年間指導計画や教育内容についての検討・立案を実施する I-4 ① ~7月, 9~11月, 12~1月にそれぞれ1回程度ずつ授業研究と協議を実施する ② 県教委 コンサルテーション事業を7・11月に実施予定。総合教育センターによる指導・助言を9・12月に受ける	<b>活動計画の実施状況</b> I-1 4月学部会で協議・合意手続きを取った。 I-2 特別支援課の計画に沿って実施した。結果報告は1月以降の学部会で実施し、教職員で共通理解を図った。 I-3 8月以降、教育課程編制を通じた検討を重ねてきた。また、福祉サービス事業所見学やキャリア教育出前授業なども実施した。 I-4 ①初任者研修、授業力向上研修での協議、学年後の授業協議をそれぞれ実施した。 ②コンサルテーション事業並びに総合教育センターによる指導を計画通りに実施した。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

教務課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	

I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	1) 「特別の教科 道徳」の実施に向けて教育課程を編成する。	<p><b>評価指標</b></p> <p>1)-1 小学部・中学部においてワーキンググループを編成し「特別の教科 道徳」について年間3回以上のワーキングを実施する。</p> <p>1)-2 ワーキングを元に年間3回以上学部会で教育課程について検討する。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>1)-1 小・中学部でワーキンググループを編成する。(6月)</p> <p>1)-2 各学部の道徳教育担当者とともにワーキンググループで教育課程(案)を作成する。(6月・10月・1月)</p> <p>学部会でワーキンググループの進捗状況を報告し意見を集約する。(6月・9月・1月)</p> <p>小学部は9月の学部会で平成30年度の具体的な教育課程(案)を提案する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>1)-1 小学部・中学部においてワーキンググループを編成し「特別の教科 道徳」について年間3回のワーキングを実施できた。</p> <p>1)-2 ワーキングを元に年間3回学部会で検討し教育課程に位置づけることができた。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>1)-1 小・中学部でワーキンググループを編成する。(6月)</p> <p>1)-2 各学部の道徳教育担当者とともにワーキンググループで教育課程(案)を作成する。(6月・10月・1月)</p> <p>学部会でワーキンググループの進捗状況を報告し意見を集約する。(6月・9月・1月)</p> <p>小学部は9月の学部会で平成30年度の具体的な教育課程(案)を提案する。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>年間を通して活動計画が円滑に進められ、各学部の成員の意見を反映することができ、教育課程の改訂に伴う準備を整えることができた有意義な取り組みとなった。</p>	「特別な教科 道徳」については本年度は小学部において取り組みが具体化され、次年度はそれに基づいて中学部の位置づけを明確にする。
	2) 次期学習指導要領に対応した教育課程編成に向けて検討する。	<p><b>評価指標</b></p> <p>1)-1 教育課程検討委員会を年間2回以上開催し、各学部の進捗状況を共通理解したり、これからの課題を明確にする。</p> <p>1)-2 各学部ワーキンググループを編成し、年間2回以上教育課程について検討し、学部会で報告・提案する。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>1)-1 教育課程検討委員会を実施する(7月・2月)</p> <p>1)-2 ワーキンググループで教育課程について検討し学部会で報告・検討する。(9月・1月)</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>1)-1 教育課程検討委員会を年間2回以上開催し、各学部の進捗状況を共通理解したり、これからの課題を明確にする。</p> <p>1)-2 各学部ワーキンググループを編成し、年間2回以上教育課程について検討し、学部会で報告・提案する。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>1)-1 教育課程検討委員会を実施する(7月・2月)</p> <p>1)-2 ワーキンググループで教育課程について検討し学部会で報告・検討する。(9月・1月)</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>-----</p> <p>(所見)</p> <p>教育課程検討委員会が設置されることで、小中高の三つの学部で連携や系統性について協議でき、学校としての一貫性のある教育課程が編成されつつあり有益な活動となった</p>	また、次年度は高等部の新指導要領が公示されるため、高等部では小中の新教育課程を踏まえた新たな教育課程の編成に取り組む必要がある。 本年度各学部に設置したワーキンググループは適切に機能したのでこれを継続して活用し、系統だった教育課程を編成していきたい。

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

研 究 課

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
1 児童生徒の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	1) キャリア教育の視点に立って小・中・高それぞれの学部で授業実践を行い、授業改善を小・中・高等部で計画し、授業記録や成果を集める。  2) 外部講師の招聘及び各課・各学部で専門性の高い校内講師を活用し、教職員のニーズが高く、児童生徒への指導・支援の充実につながる研修会を開催する。	<b>評価指標</b> 1)-1 キャリア教育の視点に立った授業実践を重ねることにより、発達段階に応じたキャリア教育に繋がる取り組みを各学部・学年ごとにすすめる。 1)-2 来年度の「実践記録集」執筆に向けて研究の経緯の計画・実践のタイムスケジュールを組み、授業記録や関係資料を集めるなど、実践研究の円滑な進行を図る。  2)-1 研修プランシート、専門性マトリックス、研修会後のアンケートを活用し教職員のニーズを把握する。 2)-2 教職員のニーズの高い内容について、研修会のコーディネートを行う。外部講師を招いての研修会を年間3回程度行う。	<b>評価指標の達成度</b> 1)-1 小学部は対面課題の授業実践とコンサルを受け指導内容や支援方法の研修中学部は各学年年間3回の研究授業、研究協議、高等部は各教科・領域ごとの授業実践を行った。 1)-2 来年度の「実践記録集」執筆に向けて各学部ごとの授業実践の記録をまとめた。  2)-1 6月に研修会に関する希望調査等を実施し結果に基づいて年間の研修計画を立て、実施した。 2)-2 外部講師を招いた研修会は研究課主催で年間2回、コンサルテーションを2回、他の課主催研修会を3回実施した。	<b>総合評価</b> (評定) B  (所見) キャリア教育の視点に立って 小・中・高それぞれの学部で授業実践と研修の計画運営を重点目標とした。各学部ごとの授業実践であったので各学部での取り組みを行うことができた。よりよい授業を目指して学部ごとにピフォー、アフターの形で実践したことの記録や成果を来年度につなげることで、高等部では来年度の学会の発表にむけて本年度にまとめたことを生かしていくことが課題である。研修については、コンサルテーションの日程が決定するのに委員会との調整が必要なため、研修計画の立案の時期のメ切りをコンサルテーションの日程と調整しながら決定することになった。	コンサルテーションのテーマである「あいさつ」「声の大きさ」「こだわり」等は社会に出てから本当に大切なことで、先生方により取組をして頂いたと感じる。  本年度はキャリア教育の視点に立って小・中・高それぞれの学部で授業研究を行った。小学部では対面課題の授業実践を行いながら、コンサルを受け指導内容や支援方法の研修を積み次年度につながるよう取り組んだ。中学部では各学年で決めた教科・領域で授業実践に取り組み、年間3回の研究授業、研究協議を行った。高等部は各教科・領域ごとの授業実践を行い、系統立てて授業が行えるチェックリストを作成している。指導内容が重複することなく引き継ぎがスムーズにできるシステム作りに取り組んでいる。また昨年度に引き続き SEL-8Sの教材を使い全学部で取り組んだ。生徒の実態にあわせて教材を作成し授業で生かしたり、授業シートへ記入し記録している。繰り返し行うことで課題としてあがっていた定着・一般化させる実践につながったのではないかと思う。各学部の取り組みを指導案や授業研究の記録をもとに授業改善に生かすとともに、成果を確認し次年度に生かしたいと思う。 キャリア教育は幅が広く、児童生徒の発達段階や実態にあった内容を考える必要がある。児童生徒や保護者の願いを取り入れながら内容や手立てを考え実践していかなければならない。教師が指導・支援するために必要な研修計画・運営をしていきたい。
		<b>活動計画</b> 1)-1 月1回の課会で各部・学年の実践研究について進捗状況を把握し、研究計画を適宜修正する。(通年) 1)-2 キャリア教育の視点に立った授業実践について各学部・学年で計画する。(～5月) 年間実施する授業について指導案や授業研究の記録を書きとめ情報を集める。(～1月) 指導案や授業研究の記録をまとめ、成果を確認し次年度に生かす。(2月) 2)-1 研修プランシートの回収・専門性マトリックスの入力依頼と集計(5月中) 2)-2 研修計画の立案と実施(6月～)	<b>活動計画の実施状況</b> 1)-1 修正をしながら、年間を通して計画通り実施した。  1)-2 年度始めに各学部・学年でキャリア教育の視点に立った授業実践の計画を行った。計画にそって授業の指導案を作成し授業研究を行い次の授業へつなげた。その記録を各学部・学年でまとめた。  2)-1 例年通り実施した。  2)-2 各課の計画した研修の連絡調整を行いながら、全体計画の立案を行った。コンサルテーションについては、県教委との調整をしながら、できるだけ先生方の要望に応じられるように努力した。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

情報教育課

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	・iPadでの教材作成及び余暇活動での活用ができるように職員研修と環境設定を行う。	<b>評価指標</b> I-1 ・教育ポータルを活用して、iPadが活用できたかのアンケート調査をし、60%程度活用できたと回答する。  <b>活動計画</b> I-1 ・全体で職員研修を行いアドバイスと要望に関しての	<b>評価指標の達成度</b> I-1 アンケート調査をし、70%できたと回答した。  <b>活動計画の実施状況</b> I-1 夏季休業中にiPadの研修を行った。	<b>総合評価</b> (評定) A  (所見) 教材作成、音楽の授業、体育祭、学校祭等に活用された。生徒の	iPadはよくできていて心配が少ないが、他の機器ではアカウント管理やオンラインゲームでのトラブル、なりすまし、詐欺ソフトなど多くの心配事がある。ス

		対応を行う。(7～8月) I-2 ・各学部で適宜職員研修を実施する。 I-3 ・7月までに高等部生徒用 ipad・ipadmini の Wi-Fi 環境を整えるために総合教育センターへの利用申請を行う。 I-4 返却された ipad 等にウイルスソフトとパソコン警備隊をインストールする。	I-2 各学部で、10月に研修を行った。 I-3 6月に高等部生徒用 ipad・ipadmini の Wi-Fi を総合教育センターへの利用申請を行った。 I-4 返却された ipad 等にウイルスソフトとパソコン警備隊をインストールし、1月より Wi-Fi が繋がりインターネットができるようになった。	インターネットを使った余暇活動や、授業での調べ物の学習にも役だった。	マートフォンやパソコンはプライベートな情報がどんどん蓄積していくものなので使い方に注意が必要。
--	--	---	--	------------------------------------	---

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

特別活動課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	I 児童会・生徒会活動での、小中高学部間交流を行い、児童会・生徒会活動の充実について検討する。	<b>評価指標</b> I-1 中高合同での朝のあいさつ運動や古紙回収を、年3回以上行う。 II-1 運動会・体育祭・学校祭テーマを周知してもらおう看板等を小中高合同で制作する。  <b>活動計画</b> I-1 中高合同での朝のあいさつ運動や古紙回収の計画を立て実施する。 II-1 テーマ決定後、デザインや制作パーツを中高合同生徒役員会で考案する。 II-2 合同制作の日程を調整し、小中高協力して制作する。	<b>評価指標の達成度</b> I-1活動計画を6月15日、10月12日、1月18日と明確に設定し各学部に協力を得て計画し、すべてを実施した。 II-2テーマ募集から、決定までを生徒会で行い。看板作成は各学部の生徒が描いたイラストを使い完成した。  <b>活動計画の実施状況</b> I-1合同での活動を、6月・10月・1月の3回実施した。高等部の生徒会役員がリードし、中学部の生徒会役員も慣れない作業にも積極的に取り組んだ。 II-1・29月の中高合同生徒会役員で看板の構成を考えながら制作を行った。	<b>総合評価</b> (評定) A  (所見) 合同での活動を行うことで、お互いよい刺激があった。特に、高等部は交流することで責任感や自発的な行動が見られるようになった。ただ、回数と活動時間が短く、特に中学部の生徒たちの達成感や充実感は十分でなかったと思われる。	

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

特別支援課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	I WISC-IV知能検査の検査者を8名以上養成する。	<b>評価指標</b> I-1 ・8名以上の教員がそれぞれ3名以上の児童生徒に対し、WISC-IV知能検査を適切に実施でき、助言を受けながら基本的な解釈まで行うことができる。  <b>活動計画</b> I-1 ・検査者及び被検査者、検査日等の決定及び調整を行う。 ・検査者に対し、理論、実施の技術、採点、基本的な解釈等に関する講習会を計3回実施する。 ・検査の解釈と指導への生かし方を中心とする事例検討会を2回以上開催する。	<b>評価指標の達成度</b> ①・小学部3名、中学部3名、高等部2名がそれぞれ3名、寄宿舎指導員8名が6名の児童生徒に対し、WISC-IV知能検査を実施し、助言を受けながら基本的な解釈まで行うことができた。  <b>活動計画の実施状況</b> ①・検査日の取りまとめを行いながら、検査器具の準備(本校には1台しかない為、総合教育センターに借りる)を行い、スムーズに検査が実施できるようにした。 ・検査者講習会を次のように3回開催した。 ○5月22日「WISC-IVの概要、VCI検査実施要領、PRI検査実施要領」	<b>総合評価</b> (評定) A  (所見) ・検査者となった教職員は、主体的に研修を受けるとともに、自己研鑽に励み、検査の実施から解釈まで行うことができた。そして各学部・舎単位で開催された「WISC-IVの報告と共通理解を深める会」で、検査者がその学びを多くの教職員	・今年度16名の教職員が研修を受けたが、本校120名を超える教職員数から考えると、まだ少数と言わざるを得ない。また、研修を受けた16名についても更なる経験を積み、スキルアップする必要があるといえる。そこで、今年度の研修システムを活かし「初心者検査者研修」を開催し、新たな検査者を養成するとともに、今年度検査者となった教職員を対象に「継続検査者研修」を開催することで、

			<p>○6月7日「WMI実施要領、PSI実施要領、結果の処理法」</p> <p>○6月12日「標準的解釈手順、指標パターンを用いた解釈と留意点、検査者のモラル」</p> <p>・夏季休業中と12月から1月にかけてのそれぞれ2回ずつ、検査者と助言者（本校岩寄教諭）を中心に「解釈の検討と指導への生かし方研修会」を開催した。</p> <p>・12月から2月にかけて各学部・舎ごとに研修会「WISC-IVの報告と共通理解を深める会」を2回から6回程度開催した(合計14回)。</p>	<p>に伝えたり意見交換したりすることで、学部、舎全体の学びとなったと考える。そのような結果が得られた背景には、検査者に講義や助言を丁寧かつ効果的に実施した岩寄教諭の力添えがたいへん大きかった。</p>	<p>新たな検査者の育成と熟達した検査者の育成を平行して行うことが必要であると考え。</p>
--	--	--	--	---	--

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

舎務部

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
I 児童生徒一人一人の発達段階をふまえた、指導・支援の充実を図る。	I 寄宿舎生の発達段階をふまえた研修を実施し、「寄宿舎個別の指導計画」の充実を図り、保護者に配布する。	<p><b>評価指標</b></p> <p>I-1 寄宿舎生の発達段階について共通理解を図るために外部講師による研修会を行う。</p> <p>I-2 事例研究の進め方について舎務部会等を活用し共通理解を行う。</p> <p>I-3 保護者や学級担任と連携を持ちながら、卒業後に生かせる生活指導のあり方について検討する。</p> <p>I-4 寄宿舎個別の指導計画は、前期を準備期間とし、後期は保護者に配布する</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I-1 昨年に引き続き、外部講師を招いて継続研修ができた。</p> <p>I-2 コンサルテーションを受けた事例に関して舎務部会に定期的な報告を実施した。</p> <p>I-3 特別支援課の支援会議を受けて前期、後期2回の話し合いを実施できた。</p> <p>I-4 後期、保護者に配布ができた。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>----- (所見) 今年度も県教育委員会のコンサルテーションを受けた。継続して事例研究を行うことで年間を通して学ぶ姿勢が身についてきた。 また、月1回の外部講師による全体研修会を重ねることで、日頃の活動を振り返り、外部にむかって説明をすることの大切さを感じた。 今後とも研修する機会を持って活動に励んでいきたい。</p>	<p>今年度「寄宿舎個別の指導計画」の充実のために実施してきたいくつかの研修の整理と関連づけをはかる。 舎生一人ひとりに応じた社会性の指導を検討する。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>I-1 学校全体で実施するキャリア教育に関する研修に参加し、寄宿舎全体で共有する。昨年度に引き続き外部講師を年4回招聘して寄宿舎全体研修会を実施する。(通年)</p> <p>I-2 「寄宿舎個別の指導計画」の目標を作成する。(5月)</p> <p>I-3 指導の改善のためのケース会議を月1回実施する。</p> <p>I-4 WISC-IV検査の研修を受け、舎生支援に活かす。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>I-1 キャリア教育の研修会に参加し後日資料を基に舎務部会において共有を図った。</p> <p>I-2 作成のスケジュールに基づき、作成した。(前期、後期)</p> <p>I-3 指導の改善のため、外部専門家等にもアドバイスを受け、各棟のグループにおいて方針を立てたものを舎務部会に提案し指導上の共通理解を図った。</p> <p>I-4 WISC-IV検査の研修を受け、実際に数名の舎生に対し検査を取った。分析結果は舎務部会に報告し舎生支援に活かした。</p>		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

生徒指導課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 (評定)	学校関係者の意見	
II 安心・安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。	<p>児童生徒の通学時の安全確保や、ルール、マナーの指導の充実を図る。</p> <p>i) 地震発生時や児童生徒の発作時のスクールバスにおける緊急時の運行に対して、マニュアル通りの行動が</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I-1 スクールバス運行時の緊急対応訓練を行った。緊急マニュアルの見直しができる。通学上の安全に関するルールやマナーを学ぶ学習を年4回以上実施した。路線バス指導を年24回以上実施した</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I-1 スクールバス運行時の緊急対応訓練を行った。緊急マニュアルの見直しを行った。通学上の安全に関するルールやマナーを学ぶ学習を年4回以上実施した。路線バス指導を年26回実施した</p>	<p>(評定) B</p> <p>----- (所見) 新たな取り組みとしては、5月、9月に路線バス利用生を対象に一斉指導を行い、ルールやマナーの確認、車内での自らの行動を振り返る等の</p>	<p>他校のスクールバスのことが報道された。社会的な意識づくりになったと思う。学校での対応策として、プールの時に使う命札のような物を使ってバスに乗った。降りたを自分でもわりに分かる</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <p>I-1 スクールバス運行時の緊急対応訓練を計画</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>I-1 スクールバス運行時の緊急対応訓練を計画実施</p>		

	<p>とれるよう職員研修を実施する。</p> <p>ii) 歩行や自転車の交通安全教室の実施や、路線バス利用の生徒に対して、公共交通機関におけるルールやマナーの指導の機会を設ける。</p>	<p>実施する。</p> <p>訓練の反省を元に緊急マニュアルの見直しをする。</p> <p>自転車交通安全教室を実施する。</p> <p>歩行交通安全教室を実施する。</p> <p>路線バス指導を登校時だけでなく、下校時も行ふ。</p> <p>路線バス利用生徒に対して、公共交通機関を利用する際のルールやマナー指導を実施する。</p>	<p>した。</p> <p>訓練の反省を元に緊急マニュアルの見直すべき点を検討した。</p> <p>自転車交通安全教室を実施した。</p> <p>歩行交通安全教室を実施した。</p> <p>路線バス指導を登校時だけでなく、下校時も行ふ。</p> <p>路線バス利用生徒に対して、公共交通機関を利用する際のルールやマナー指導を実施した。</p>	<p>指導を実施した。今年度は路線バスにおけるマナーの問題、トラブルが多発したが、必要に応じて登下校便に乗車し指導を行うことができた。</p> <p>また、頻繁にバス停での指導も実施し、公共交通機関を利用する際のマナーやルールの指導の徹底を図った。その他、自転車安全教室や歩行者への交通安全教室の実施、登下校時にJアラートが発令された時の対処法等あらゆる通学上の安全確保の指導を行った。</p> <p>スクールバス運行時の緊急対応訓練では、従来の大地震発生時の対応だけでなく、児童生徒の体調急変時の対応マニュアルの見直し、ロールプレイによる説明も加えることができ、より充実した訓練を実施することができた。</p>	<p>ようにするなど、生徒本人の意識を高めることも必要と思う。</p> <p>国府は安全なところと言われてきたが、近年は身近なところで事件が起きるようになった。生徒の安全について引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>社会では「指導」という言葉を使わなくなった。上から目線の印象がある。「支援」を使っている。</p>	<p>自転車で通学している生徒を招集し、新しい条例や事故を起こした時の対応、学校周辺の危険な箇所、ヘルメットの使用について指導する必要があると考えている。</p> <p>歩行交通安全教室について、対象学部や実施時期について検討が必要である。</p> <p>スクールバス運行時の緊急対応訓練は、教職員に定着しつつあるので、アンケート結果等を参考に、今後も継続して実施していきたい。</p>
--	--	--	---	--	--	---

\* 「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

健康安全課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>II 安心・安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。</p>	<p>I) 災害時を想定して、事前準備及び事後の対応が迅速にできるようにする。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I-1 災害時にすべての児童生徒、教職員が、適切に行動できるように、実践的な訓練を行う。</p> <p>I-2 災害時に迅速な対応ができるようにするため、防災カード及び、引き渡しカードの作成や、通学調査の実施を行う。</p> <p>I-3 職員の防災意識を高めるの職員研修を行う。</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>I-1 小中高全学部同時に、年3回以上の防災訓練（火災、地震、津波等）を実施する。</p> <p>I-2 毎年、4月中に、小中高全学部の児童生徒の防災カード、引き渡しカード、通学調査カードを作成し、防災カードは本人が携帯し、元を担任が保管、引き渡しカード及び、通学調査カードは学校長が保管する。</p> <p>I-3 毎年1回以上、職員対象の研修会を実施する。今回は、避難所設営及び非常食作りを実施する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I-1 年間4回の避難訓練を行い、短時間での避難が、落ち着いて出来るようになった。</p> <p>I-2 4月中に、ほぼ全員の児童生徒の防災カード等の作成が完了した。</p> <p>I-3 1回ではあるが、職員の8割以上が参加した、防災の研修を行うことが出来た。</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>I-1 年間4回の防災訓練を実施することが出来た。避難することに重点を置き、消火訓練や起震車体験は行わなかった。</p> <p>I-2 4月中に、ほぼ全員の防災カード、引き渡しカード、通学調査カードを作成することが出来た。本年度、活用することはなかったが、いつでも使えるように、保管場所等の確認や連絡を徹底した。</p> <p>I-3 夏期休業中に、まなぼうさい教室、防災出前授業を依頼して、職員の8割以上が参加した避難所運営及び非常食作りの研修を実施することが出来た。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年より、火災による避難訓練を1回増やし、年間4回の避難訓練を実施することが出来た。また、パニック等で、外への避難が困難な児童生徒のクラスに、寄宿舍職員が応援に駆けつけ、協力して避難活動に対応することが出来た。</li> <li>・避難所運営に関しては、避難所運営のシミュレーションを通して、多くの職員に、避難所運営の意義や、方法等を理解してもらい、防災意識を高めることが出来た。</li> </ul>	<p>次年度より、徳島市の指定避難所になるため、地域との連携をより一層図っていく必要がある。特に、地域の自主防災連合会と連絡を密にして、早い段階で、避難所運営の案を作り、夏期休業中等を利用して、地域住民、児童生徒、教職員が参加した避難所運営の研修会を行う必要がある。また、この研修会は、単発で終わるのではなく、長い期間継続して、避難所運営のエキスパートを育てていく事が大事である。</p>

\* 「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

人権教育課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
II 安心・安全な学校づくり(危機管理・安全管理)を推進する。	1 生徒活動課と連携していじめの防止に努める。	<b>評価指標</b> II-1 全教職員を対象に、「いじめ」に関する講演会を行い、実施後のアンケートで「良かった」という評価が80%以上になる。	<b>評価指標の達成度</b> II-1 夏季休業中に徳島県人権教育指導員の先生を講師に、「いじめの防止・対処法について」という演題で講演会を行った。本研修会のアンケート結果は「満足した70.1%」「普通29.9%」であった。自由記述の回答からは、「より具体的ないじめ防止法のプログラムの内容が知りたかった」「障がいのある子どもに対するプログラムが知りたい」という意見があった。	(評定) B ----- (所見) ・今回の講演会は、虐待やいじめなどの子どもに対する暴力防止のワークショップを行っている国際的なNPOの徳島支部の方をお招きしての講演会であった。講演会は、そのNPOの理念や子どもに人権を守る基本的な考え方が中心であった。その内容自体は、好評で、それが70%が満足したというアンケート結果に表れているが、その反面、具体的な指導プログラムに言及されていなかったことや、健常の児童生徒が中心で、障がいのある児童生徒に対する内容が中心でなかったことなどから、評価指標の80%に達しなかったものと思われる。	・ 今回の講演会は、満足度70%に留まるという大変厳しい結果になってしまった。しかし、それは今回の研修に期待が大きかったからだと思われる。それだけ「いじめの防止・対処法」は、緊急の課題であると思われる。しかし、アンケートの自由記述にあるような「障がいのある子どもに対するプログラム」や他害傾向にある生徒の暴力防止プログラムは、難しいのが実情である。 今後は、教員への研修という形ではなく、いじめ事例が発生した場合に、生徒指導課の教員とともに、人権教員課の教員も、人権教育の視点からいじめを受けた生徒の「心のケア」やいじめをした生徒への指導を積極的に行う必要があると思われる。
		<b>活動計画</b> II-1 全教職員を対象に、「いじめ」に関する講演会を行い、実施後のアンケートをとる。	<b>活動計画の実施状況</b> II-1 夏季休業中に徳島県人権教育指導員の先生を講師に、「いじめの防止・対処法について」という演題で講演会を行い、実施後に講演会の満足度についてアンケート調査を行った。		

高等部

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
III 保護者・関係機関及び地域との連携を強化し、開かれた学校づくりに努める。	III 生徒が日頃の学習で身につけた技能を、地域での貢献活動の中で活かすことにより、意欲の向上やエシカル消費の推進を図る。	<b>評価指標</b> I-1 札所でのお遍路さんに対するおもてなし(飲料の接待やリサイクル製品の配布)を行い、地域に貢献していることを実感できた。 I-2 地域で清掃活動を実施することにより、日頃の学習の成果を活かすことができた。	<b>評価指標の達成度</b> I-1 お遍路さんへのおもてなしにより、地域の文化にふれたり、他の人とのコミュニケーションができ、生徒全員が達成感を感じることができた。 I-2 作業学習で学校周辺の施設等の清掃活動を実施し、校内で学んでいるビルメンテナンス等の内容を校外で活かすことができた。	(評定) A ----- (所見) お遍路さんへのおもてなしは初めての試みであったが、生徒も楽しそうに活動できていた。校外での清掃活動も例年より回数を増やして実施できた。どちらも校内で学んだ内容(接客、リサイクル製品の配布、清掃活動)を地域に活かすという試みであったが、地域の方々から声をかけられたり褒められたりすることで生徒の満足度も大きかった。	地域との交流は大切。お遍路おもてなし、公民館との交流、中学校や高等学校の交流など、これからもお願いしたい。 お遍路さんへのおもてなしでは、エシカル消費という観点から、作品の制作や購入など配慮が必要になってくる。清掃場所も今年度以上に増やしたいので、ジャンボタクシーなど生徒の移動に必要な費用を確保したい。
		<b>活動計画</b> I-1 札所でのおもてなしを年間4回実施する。 I-2 環境整備班による札所や神社等での清掃活動を年間5回以上実施する。	<b>活動計画の実施状況</b> I-1 14番札所常楽寺で5月と10月に2日間づつ、計4日間実施し、約100人のお遍路さんにおもてなしができた。 I-2 各学年の環境班が、府中宮神社、特別養護老人ホーム「ライム」など、11回の清掃活動を校外で実施できた。		

\* 「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった



渉外課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
Ⅲ 保護者・関係機関及び地域との連携を強化し、開かれた学校づくりに努める。	Ⅰ 保護者を対象とした進路研修会や施設見学を実施することで、保護者が進路についての知識や理解を深め、児童生徒の将来を見通した支援の充実を図る。	<b>評価指標</b> I-1 各学部の保護者を対象とした進路研修会や施設見学を実施し、参加保護者から研修内容に満足したという評価を得る。(学部毎)	<b>評価指標の達成度</b> I-1 各学部の保護者を対象とした進路研修会においてはほぼ満足する回答を頂いた。また、施設見学においても回数を増やすなどできる限り、保護者の希望に添うように取り組んだ。	(評定) A ----- (所見)	
		<b>活動計画</b> I-1 保護者のニーズをもとに、PTA役員と研修会や施設見学の運営に関する連絡調整を行う。(4月～6月)(10月～2月) I-2 小・中・高の学部長や研修会の講師である進路指導課長と相談しながら、進路研修会や施設見学を実施する時期や日程、場所を検討する。(4月～6月) I-3 進路研修会や施設見学の案内文書を作成し、配付する。 I-4 研修会や施設見学を滞りなく実施する。 I-5 研修会実施後に保護者からの意見をまとめたり、施設見学では保護者主体のレポートの作成をお願いする。	<b>活動計画の実施状況</b> I-1 進路課長や進路主事・学部長などと相談しながら、保護者のニーズに応えられるよう回数を増やしたりして進路研修会や施設見学を実施する時期や日程、場所を検討し、実施できた。 I-2 保護者からの意見をまとめたり、施設見学では保護者主体のレポートの作成をお願いできた。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

進路指導課

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
保護者・関係機関及び地域との連携を強化し、開かれた学校づくりに努める。	① 保護者に対して子どもたちの進路に対する理解と啓発に努める。 ② 進路先や関係諸機関との連携強化に努める。	<b>評価指標</b> ①-1 保護者向けの研修会を小・中学部で1回ずつ行う。高等部では各学年で1回以上の研修会や進路相談会を開催する。 ②-1 進路先、相談支援事業所、各市町村、就業・生活支援センター、職業センター、公共職業安定所、子ども女性センター、相談支援センター等の関係諸機関との連携を満にし、子どもたちの社会自立に向けた情報共有を図る。	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 保護者向けの研修会では、小学部・中学部の保護者が合わせて67名の参加があり盛会であった。アンケートにも、ほぼ全員から参加して勉強になった等の良かったという評価を得られた。 ②-1 高等部の生徒の卒業後の進路先や生活スタイルについて、各関係諸機関の方々と相談することができた。公共職業安定所では求職者登録や面接・紹介状などの手続きを行った。職業センターではガイダンス・職業評価・職業準備支援などを行った。	(評定) A ----- (所見)	進路で困っていることを知りたい。施設がどんなことに取り組んだらいいか、学校から教えてもらえることがありがたい。
		<b>活動計画</b> ①-1 小学部の保護者進路研修会を9月に行う。また、中学部の保護者進路研修会を11月に行う。高等部1年生保護者進路説明会を6月と11月に実施する。高等部2年生の拡大進路相談を1月から3月の間に実施する。高等部3年生の進路説明会を9月と2月に実施する。 ②-1 各市町村毎の自立支援協議会に参加し、情報共有を推進する。関係諸機関を招集した支援会議等を必要に応じて行う。また、拡大進路相談の開催等、関係諸機関等の社会資源の活用を推進し、卒業後も本人や保護者とうまく連携が取れるように橋渡しをする。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 それぞれの学部の保護者進路研修会や、進路説明会、拡大進路相談等を計画通りに実施することができた。高等部の進路説明会と拡大進路相談には、全員の保護者や関係諸機関の方々の参加のもと、100%の達成ができた。 ②-1 自立支援協議会や拡大進路相談を通して、進路先、相談支援事業所、各市町村、就業・生活支援センター、職業センター、公共職業安定所、子ども女性センター、相談支援センター等の関係諸機関との連携を図ると共に情報を共有して、卒業後の職場定着や地域移行の支援が行き渡るよう移行支援ができた。		

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった